

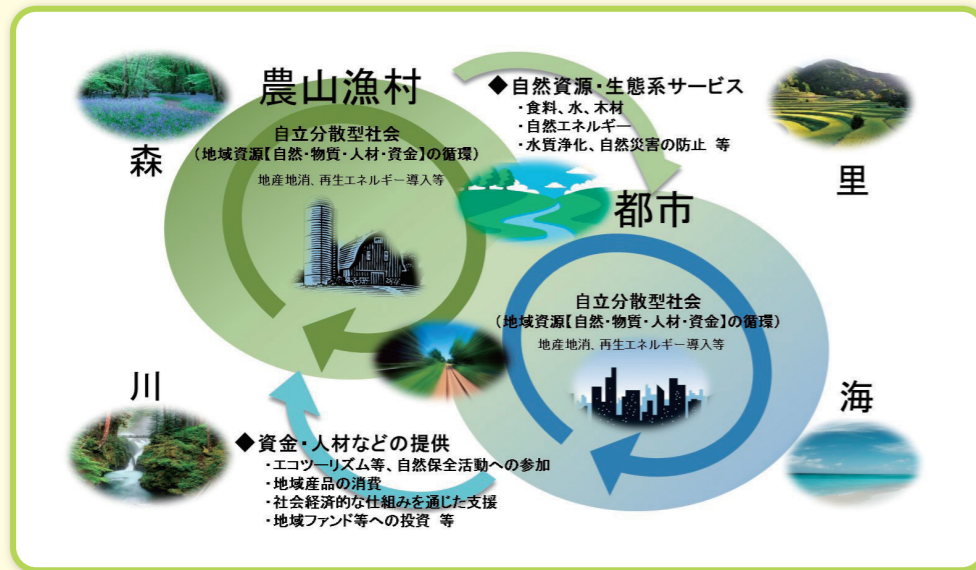


地域循環共生圏とESDのつながり

地域循環共生圏を構築するためにも地域でのESDはとても重要です!

地域循環共生圏とは

- ◆ 2018年4月に閣議決定された「第五次環境基本計画」で提唱された新しい概念です。
- ◆ 各地域がその特性を活かした強みを発揮し、地域資源を生かし自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて地域資源を補完し支えあいながら、農村漁村も都市も活かすという考え方です。

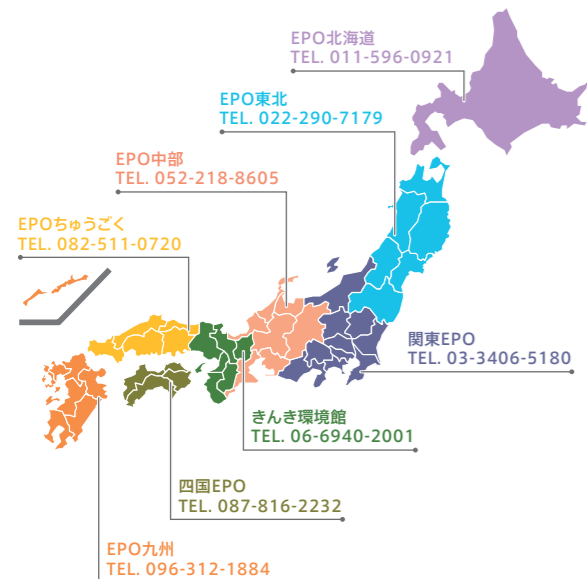


地域循環共生圏

「地域循環共生圏」の創造に向けて

- ◆ 地域循環共生圏の構築は、「未来の地域づくり」ともいえます。
- ◆ 地域の課題や魅力が一番知っている地域の人々が、地域づくりの主役になります。
- ◆ そこで、地域での人材を育むためにも、地域の様々な拠点でESDを行うことが大事です。

地域にある様々な場所は、未来の地域づくりのためにも大切な「学びの場」です!



環境省地方環境パートナーシップオフィス (地方EPO)

関係者内での対話を促したり、必要に応じて人材や資金、知識、技術、専門性に至るまでのあらゆる資源を探したりなど、ESD実践機能の強化を支援します。お気軽にお電話下さい!

詳しくは本冊をご覧ください

こちらからダウンロードできます。
地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)
<http://www.geoc.jp/information/report/>
「～SDGs達成に向けた～持続可能な地域の創り手を育む“学びの場”づくりガイドブック」

概要版

～SDGs達成に向けた～

持続可能な地域の創り手を育む “学びの場” づくり ガイドブック



こんな方へ!

いま、地域に根ざしたESDが求められています。「どんなところでESDを始められるの?」「地域でESDを実践するにはどんなステップが必要?」そんな疑問をお持ちの方々へのガイドブックです。



世界の現状

- ◆ 気候変動、生物多様性の損失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する様々な問題があります。

SDGs (持続可能な開発目標) とは

- ◆ 2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された、2030年を年限とする17の国際目標で、Sustainable Development Goalsの略称です。
- ◆ 誰一人取り残さない「持続可能な社会」の実現を目指します。
- ◆ 「我々の世界を変革する」(Transforming our world) ことなかかけ、世界中で取組が始まっています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標



ESD (持続可能な開発のための教育) とは

- ◆ Education for Sustainable Developmentの略称です。
 1. 人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、
 2. 現代社会における様々な (地球規模の) 問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、
 3. 問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらす
- ◆ つまり、「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」です。

ESDによる人づくりは、SDGsの17のすべてのゴール達成につながります!



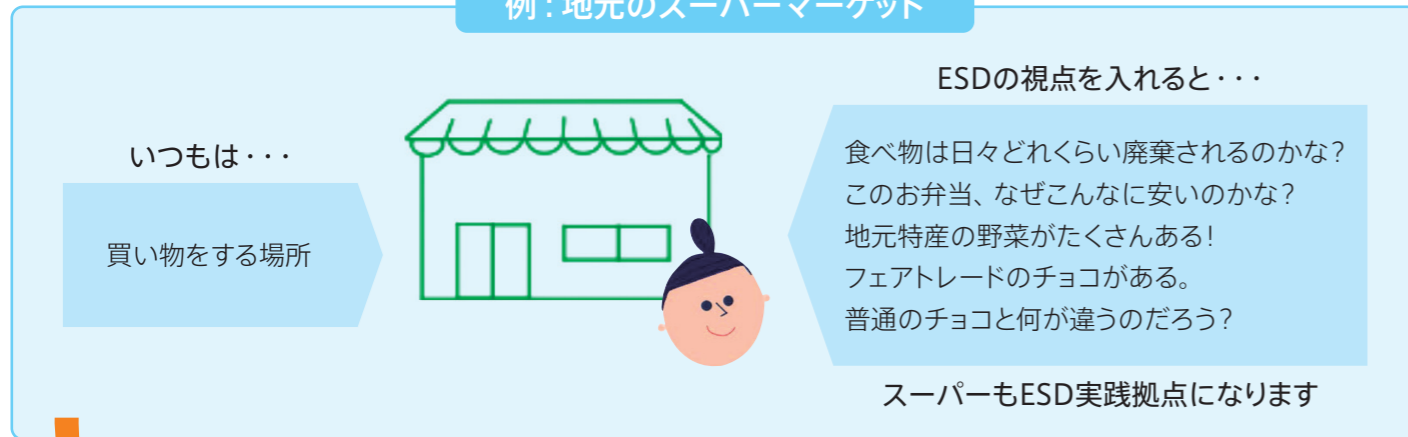
// 地域に根差したESDの重要性

- ◆「持続可能な地域の創り手を育む」ためには、その地域に根差したESDの探求が必要です。
- ◆そこで大事になるのが、社会・文化施設、公園、企業など地域の様々な拠点における実践です。
- ◆それらの拠点にはESDにかかわる要素がたくさんあり、身の回りにある拠点だからこそ、そこで得た学びを自分ごととして捉えやすくなります。

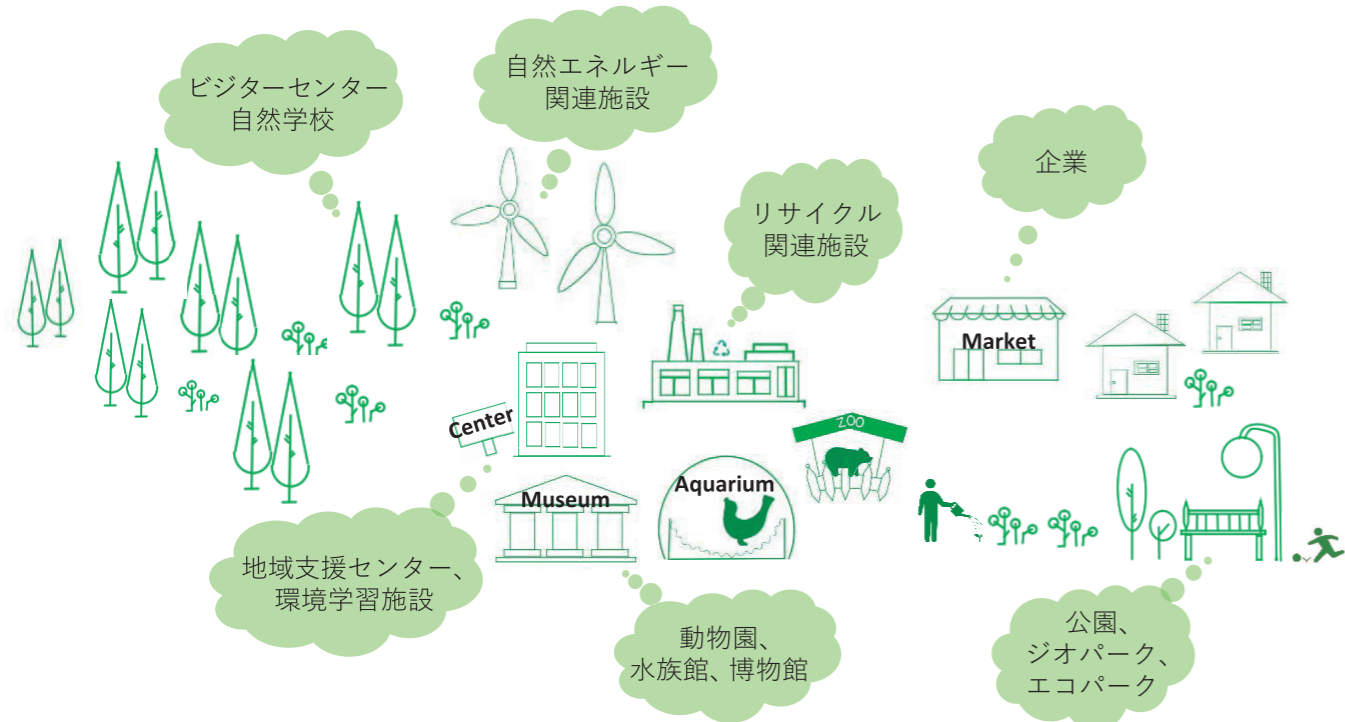
// 暮らしの中にあるESD

- ◆私たちが廃棄したものが他の地域で問題を引き起こしていたり、普段使っているものが実は他国の環境を破壊していたりなど、私たちの暮らしと社会の問題には密接な関係があります。
- ◆そこで、ESDのポイントである「社会の様々な問題を、自らの課題としてとらえる」ために、身近な地域にある様々な場所が、とても大事な学びの場になります。
- ◆地域にあるどんな場所もESDを行う場所、つまり「ESD実践拠点」になります。

例：地元のスーパーマーケット



他にも、例えば地域にあるこんな場所も、視点を変えるとESD実践拠点になります。
ガイドブックには、28拠点でESDを実践した事例が収められています。



// 深い学びを生み出すESD実践の3つの機能

- ◆ ESD実践拠点として深い学びを生み出すためには、大きく3つの観点から機能強化に取り組む必要があります。

1. 体制づくり

基盤となる体制づくり

- 地元の住民との対話
- 地域課題の解決に自社の取組がどのように繋がるかの整理
- 未来へのビジョンを共有

など



実行委員会を通じお互いの活動を知る

2. 人づくり

ESDを実践する人材の育成

- ESDに熱心な人との出会い
- 社員研修
- イベントでの実行委員会
- 多様な人との交流会

など



社員研修の実施

3. ツールの開発

様々な学びを生み出し、
伝えるためのツール作成

- 教材
- 配布物
- プログラム
- ツアー
- 展示

など



物部川eco学習ガイド

// ESD実践拠点が生み出す「学びの連鎖」

- ◆ ESD実践拠点には、多様な主体との対話があります。その中で、新しい教材・プログラムが生まれ、ESDを自ら始める人が現れたりなど、学びの連鎖が生まれていきます。

また、地域のあらゆる場所が、それぞれの強みを活かした学び場となり、拠点同士が繋がっていくことで、地域全体が「未来を創る学びの場」となっています。

